



【おうち英語】愛のツッコミ3連発

今日のおうち英語 Insight

ダメ出しのような内容で申し訳ないのですが、

私が時々おうち英語界で耳にする

「それを言っちゃあ おしめえよ!」的な禁句ワードを

このおうち英語界のフーテンの寅さんこと

私 MommyKayo (誰が言った…。しかもまた古い…) がご紹介するとともに、

それらの禁句ワードに愛のダメ出しをしてみたいと思います。

私が主宰するオンライン英会話スクールで

普段会員様とやりとりをさせていただく中で

「んんん!!!なんて言いましたか!聞き捨てなりませんよ!!!!」

という台詞が会員様から聞かれることがあります。

それはこのようなものです。↓

★「ウチの子にはまだ早い」

★「もっと上手に話せるようになったら…」

★「迷惑を掛けるので。。。」 「失礼なのは…。」 「申し訳ないです。」

「That's 日本人!!!」ともいうべき、謙虚さが伺える一言集ですが、

これを社交辞令で言ってくださっているのであれば日本人の美德かと思いますが、

実際のところ本気でそう思って言っておられる方が多いようです。

今日はそれらに声を大にして"No!"と言いたい!言わせてください!!!

では、それぞれ一つずつダメ出しスタート!!!

目次

- ★「うちの子にはまだ早い」
- ★「もっと上手に話せるようになったら・・・」
- ★「迷惑を掛けるので。。。」「失礼なのは・・・」「申し訳ないです。」

★「うちの子にはまだ早い」

まず最初に取り上げたのは、「うちの子にはまだ早い」です。

私が主宰しているスクールがオンライン英会話スクールであることから、この「うちの子にはまだ早い」は「うちの子にはまだオンラインレッスンはまだ早い」という意で使われることが多いのですが、オンラインレッスン以外のリーディングなどでもよく聞かれる台詞です。

確かに文字通り、

子どもの成長に照らし合わせて考えたとき、

子どもの成長を待つという意味で

このセリフを正しい使い方使われる方もいないとは言いませんが、

一般にはあまり多くない印象。

使うべき人に使われず、使うべきでない人が使っている気がします。

(辛口炸裂ごめんなさい)

「早くないのに早いと誰基準で決めたのでしょうか？」と思ってしまう場合では、

実は親や指導者が

「その時期に何をしたらいいかが正直わからない。

だから早いということにしておこう。」

という言葉の代わりに使われていることが多いように思っています。

それって子どもの成長の可能性を摘んでしまう

悪魔のワードになってしまっていないかねえ・・・。

子どもの成長は早く、そして取り返しがつかないのです。

そう思うと「まだ早い」という言葉を安易に使うべきではなく、

「本当に早いのか」ということを真剣に吟味すべきです。

自分で早いと判断した場合はまだしも、

第三者に「まだ早い」と言われそれに盲目的に従っても、

その誰かは責任なんて取ってくれません。

本当に早いか早くないかは実際にやってみないことにはわからないものです。

オンラインレッスンで言えば、

一度や二度のレッスンで、子どもが期待通りの受け答えをしなかったから

「まだ早い」という結論を出したり、

あるいは始める前から「インプットが足りてないからまだ早いに違いない・・・」

と決めつけてしまうのは全く適切ではありません。

ここでは「まだ早い」という言葉に逃げずに

「何が遅いのか。何が足りないのか。」という真の問題に

目を向けることが機会とすべきチャンスだと思うのです。

この場合の「まだ早い。まだ早い。」は問題を先送りにする

現実逃避的なワードになってしまっていることが多く、

現実逃避している限り、その時は永遠に来ないものです。。。

「話さない」という姿が目の前にあるのなら、

何が足りなくて話さないのか、

何が障害となっていて話さないのかを

真剣に原因を洗いだしていかないとダメなんじゃないのかなあ・・・と

私なんかは老婆心的に思ってしまう。

(これぞホントに老婆が思う老婆心・・・)

リーディングの多読や動画視聴のアニメ選びなどにおいても、

「ウチの子にはまだ早い」と本や動画のレベル選びに

かなり慎重になられる方がいらっしゃるようですが、

リーディングや動画視聴というのは

子どもにとってインプットの側面が大きいものなんですよ。

ですから、リーディングで与える本や動画視聴のアニメのレベルは

現在の子どもの実力よりも半歩先ぐらいのレベル、

あるいは子どもが興味を示すのであれば

それ以上のレベルであっても良いと私なんかは思っています。

私は元々が高田純次もビックリのテキトー人間なこともあって(それはひどい)、

多読も動画視聴に関してもあまりレベルというものを

意識せずに取り組んできたところがありました。

ORT や CTP などのセット教材的な本も取り入れてきましたが、
レベル毎に買い進めるという方法ではなくて、
大人買的に全シリーズを一気に買い揃え、
子どもが読みたがる場所から読みたいように読ませただけで、
「まだ早い」と次のステップに進ませる時期を私が選ぶということはしてきませんでした。

リーディング、動画視聴の決定権は子どもに委ねればよいと思ってきたものです。

子どもが見たい物を見せれば
自然に年齢相応のものをチョイスするので大丈夫なのではないかと思えます。

「早い、早い」と与える素材を遅らせていると、
だんだん年齢相応の知的好奇心と子どもの英語力の乖離が深刻になり、
年齢相応の英語が楽しめないことが
後々深刻な問題となってくるという問題を生む可能性があることも
是非心に留めておいていただきたいことです。

これまで運営しているオンライン英会話スクールを通して
多くのお子さんのおうち英語に関わってきましたが、
その子が抱く興味・好奇心は
どんな良質な教材にも勝ると思わざるを得ないというが
私の率直な感想です。

子どもの興味・好奇心を掴んで離さないインプット素材を与えていくことが
おうち英語を続ける最大のコツであると同時に、
そこをうまく利用できないとおうち英語を続けていくことは
途端に難しくなってしまうものです。

「早い、早い」の問題先送りのツケ、案外深刻ですよ・・・。

★「もっと上手に話せるようになったら・・・」

「～たら」「～れば」は歴史を語るうえで禁句と言われますが、
おうち英語においても禁句だと私は思っています。

おうち英語では、この「・・・たら」は未来志向の話をしているように
思える表現に一见思えますが、結局は仮定の話をしているに過ぎないのですよね。。。

仮定や願望をいくら語ったところで歴史が変わらないのと同じく、
何もアクションを起こさないまま、変えないままでは、
そのタイムラインに起こることが変わるわけがないのではないのでしょうか。

ビジネス界で「いつか」と「おぼけ」は出ないと言われてたりもしますが、
「いつかやろう」「そうになったらやろう」と思っていることは
結局やらないままで終わってしまうことが多いものです。

新しいことに挑戦することは誰にでもストレスが掛かることです。
不安も付き物ですし、自分の経験上、最初からうまく行くことなんてほぼないように感じています。

試行錯誤を重ねる必要もありますし、途中で心が折れそうになることも多々です。

わが家のおうち英語に関しても、子どもの反応や時間確保の難しさから
「また今度にしよう」とか「またいつかね」と思いそうになったことは
数えきれないくらいありましたが、
「今この時は今しかない。今やらなくていつやるんだ～～！」と
石にしがみついた思いで自分の惰性や弱気と常に戦ってきた気がします。

実際、今もそうです。

今、上の子が18になりしみじみ感じることは、
子どもは案外あっという間に成長してしまうものだなあということです。

永遠に続くかのように思われた子どもとの時間も今思えばあっという間だったなあ・・・と。

あの時、歩みを止めなくてよかったなあ・・・と思うばかりです。

そして子どもの成長もあっという間でしたが、
自分もあっという間にこの年齢になってしまい、
あと何年元気に動き回れるのだろうか・・・などと

最近考えてしまうお年頃に差し掛かり、
なおさら、「人間、やりたいと思ったこと、挑戦したいと思ったことはすぐやるべきだ。人生は短いんだ。」
と思うようになってきました。

ここ数年、そういうポリシーで活動していますが、
動いたことには動いたことなりの成果というか、何か残るものだなあと実感しています。

おうち英語においてもそれは例外ではなく、
「挑戦させてみたいな」とか「やらせてみたいな」と思ったことはすぐやるべきです。

「～になったら」と時期を待っていても、
その時期はアクションなしに自然にはやってこないと思うのですよね。

だっておうち英語は自然現象ではないのですから…。

人工的に親が作り出した環境で英語を育てているのが基本のスタイルなので、
人工的に環境を作り出さない限り、自然発生的には超常現象的なものは出てこないと思います…。

突然ある日、子どもが英語を流暢に話し出す瞬間を待ち望むということは、
それこそ「おばけ」が出ることを期待するようなものなのではないかとさえ思ってしまうのですよね…。

たぶん出ない。。

★「迷惑を掛けるので。。。」「失礼なのは…。」「申し訳ないです。」

この台詞も本当によく言っています。

- ・レッスン中に講師に失礼な態度を取った
- ・機嫌が悪かった
- ・一言も話さなかった などなど

人に迷惑を掛けないという心持ちはとても大切だと思います。

テキトー人間な私ですが、
さすがにモラルとして人に迷惑を掛けないという意識は常に持ちたいと思っています。
日本人が持つ規範として誇るべきものだとも思っています。

しかし、度が行き過ぎるのもどうかと思うのです。

だって、相手は子どもです。

子どもはオンライン、しかもよく知らない人と

英語でコミュニケーションを取るという

そのシチュエーションに慣れていない子どもにとってみれば大きな挑戦をしているところで、

「相手に失礼のないように対応せよ」と求めるのは少々酷なことなのではないかと思うのです。。。

もちろん「親しき中にも礼儀あり」ということを教えていくことも

大切なことかと思っていますので、

行き過ぎた無礼には注意を促していくことが必要だと思っていますが、

多少の失礼・迷惑には目をつぶらなければ子どもの成長を促せないのではないか

とも思うのですよね。

オンラインレッスンで学べることは英語だけではないと思っています。

究極、コミュニケーション術を学んでいるわけで、

どうしたら人とうまく向き合っていけるのだろうかということも

英語を通して同時に学んでいるのだと思っています。

最近の日本では、子育てに優しくない、理解がないことを言う人も見受けられます。

残念ながら自分も子どもだったことを忘れてしまったような人もいますよね。

しかし迷惑を掛けるのは子どもだけではありません。

大人になっても自分の力だけでは及ばず、

人の力を借りないとうまく物事を回せないときだって

山ほどあるのではないのでしょうか。

私だって、こんなテキトー人間ですから、

オンライン英会話スクールの運営で行き届かない点が山ほどあります。

きっと迷惑を掛けていていると思います。

でもそれを「これは許されないことだ。切腹ものだ。」と思って、
「もうオンライン英会話スクールは閉じなければ…」と私がもし言ったら、
皆さん、
「そんなことないですよ、迷惑なんかじゃないですよ。大丈夫。お互い様です。」
と言ってくれないですか？(えっ?!もしかして言ってもらえない?)

それと同じです。

お互い様なんです。

迷惑を掛けながら人は助け合いながら生活しているんじゃないでしょうか。

私が主宰しているオンライン英会話スクールに集まってくれている講師は
お子さんの不機嫌な態度などを迷惑だとか失礼だなんて思っていないです。

みんな自分の子育て経験から

「子どもだもん、そんなときもあるよね。」と受容してくれています。

そして本気で親身になって、それぞれのお子さんの英語を引き出そうと
いつも懸命に努力してくれている素敵な人たちです。

そんな素敵な先生たちだからこそ「申し訳ない」という思いも強くなってしまふかもしれないのですが、
誰にも迷惑掛けずに子育てもできませんし、おうち英語もできないと私は思っています。

そんなことを踏まえて、ウチのオンライン英会話スクールは
子育てに優しい場、おうち英語に優しい場でありたいなと嘘偽りなく思っています。

社交辞令も抜きで。

私も講師も心の底からそう思っていることを改めて伝えておきたい…。

だから「申し訳ない」なんて一言で、チャンスを遠ざけてしまうことをしないでくださいね(^^)

せっかく始めたおうち英語。

チャンスを掴み損ねて、
子どもがある程度大きくなってしまってから
「アレ?なんだか何も英語が身についてないような・・・」
と求めていただきたくないため、
少し辛口で語ってしまいました。

根底にある思いは「チャンスを逃さないでほしい」ということです。

チャンスは何度もめぐってきませんし、その時その時の旬は一瞬です。

上の子が高校3年生、下の子も中学校3年になったわが家の子育てを振り返ってみると、
子育てというのは長いように思えたときもありましたが、
今振り返れば走馬灯のようなものです。

時期を逸するということは子育てだけでなく、
人生全般においては取り返しがつかない場合も多いと思います。
「後悔先に立たず」とは言いますが、
「あちゃ〜」と思ってもそれは本当に後の祭りなんですよ。。。

おうち英語においても、
せっかく始めたおうち英語が実を結ぶことなく終わることがないように、
禁句としていただきワードを3つ挙げてダメ出しさせていただきました♪

誰かの背中を押せたのであれば幸いです(^^)

2021年11月16日掲載 note 【おうち英語】愛のツッコミ3連発より引用